



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ カーボンニュートラルに向けての島田市の挑戦

皆さんは「カーボンニュートラル」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。カーボンニュートラルとは、「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」という意味で、温室効果ガス排出量（二酸化炭素が99%を占める）を大幅削減することで、喫緊の課題である地球温暖化に歯止めをかけようとする取り組みです。

地球温暖化の影響で最も知られているのは、気温や海水面の上昇です。大気中の温室効果ガスの濃度増加に伴い、世界のほぼ全域で平年の気温が昔に比べて上昇し、台風が激甚化したり、異常気象が頻発したりするなど、生態系にまで及ぶ影響が出ています。海面の上昇では、沿岸侵食の拡大、土地や財産の損失、人々の移住、高潮リスクの増大、沿岸の自然生態系の減衰など、こちらもさまざまな悪影響が生じます。地球温暖化は、私たちの暮らしに極めて深刻な影響をもたらす喫緊の課題なのです。

当市も、市民や事業者と一体となり、脱炭素社会の実現に取り組み、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」宣言を本年3月に表明しました。実現に向けての具体的な方策は、現在策定中の「第3次島田市環境基本計画」に盛り込んでいきます。同時に「カーボンニュートラルの実現に向けたロードマップ」の策定を進めてまいります。しかしながら、カーボンニュートラルへの取り組みは、そう簡単ではありません。一つの自治体だけで達成できるものではありませんので、国や県とも連携しながら、事業所や市民の皆さんのご理解とご協力を得て進めていく必要があります。

ここからは、当市の取り組み事例を幾つかご紹介します。まずは、自然環境を活かした発電事例です。川根温泉では、自噴している源泉に含まれるメタンガスを活用した、全国初となる発電システムを平成29年に導入しました。温室効果ガスの排出を抑制すると同時に、電気と熱の2つのエネルギーを作り、電気は「川根温泉ホテル」に、熱は「川根温泉ふれあいの泉」の給湯に利用しています。



川根温泉のメタンガス発電システム

また伊太地区では、県内初の小水力発電で、一般家庭1,200戸分の電力を発電しています。小水力は、水の流れを利用して発電するため、昼夜を問わず安定した発電ができるのがメリットです。さらに、伊太・田代地区では、市の土地を活用して、民間事業者による太陽光発電「ソーラーパークしまだ」が稼働しています。そしてエネルギーの地産地消などに関する協定を締結した民間事業者との公民連携により、小中学校などの公共施設への太陽光発電設備の設置も進めています。市内では民間のバイオマス発電事例もあり、行政・民間ともに豊富な自然環境を活かした発電に取り組むことで、当市のエネルギー自給率は約38%（令和2年度）となっています。ちなみに、平成30年度の日本のエネルギー自給率は11.8%であり、当市は極めて高い水準にあります。

このほか、事業所における地球温暖化防止に向けた取組を促進するため、エコアクション21の認証・登録の支援やフードドライブの促進、生ごみ処理機や蓄電池などへの補助金の交付、環境教育なども実施しています。



ソーラーパークしまだ

現在、令和4年度から7年度を計画期間とする「第2次島田市総合計画後期基本計画」を策定しています。この計画では、次代につなげるための長期的な視点にたった行動指針の一つとして「循環型社会」の実現を掲げ、エネルギーの地産地消、省エネの推進や、資源の地域内循環、空き家や公共施設の有効活用などの取り組みを位置付けていく予定です。次の世代に、持続可能でより良い島田をつなげるために、これからもカーボンニュートラルに向けた挑戦を続けてまいります。皆さんもぜひ、身近なところから取り組みを始めてみてください。冬場に1枚多く着込み、暖房を使う頻度を抑えることも、カーボンニュートラルに向けての大事な取り組みです。

今年も1年間、市政羅針盤をご愛読いただき、ありがとうございました。